

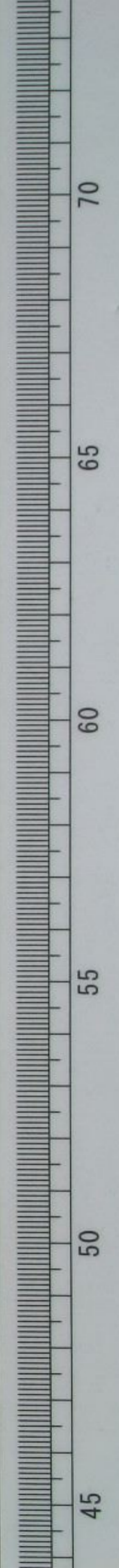
語林類葉

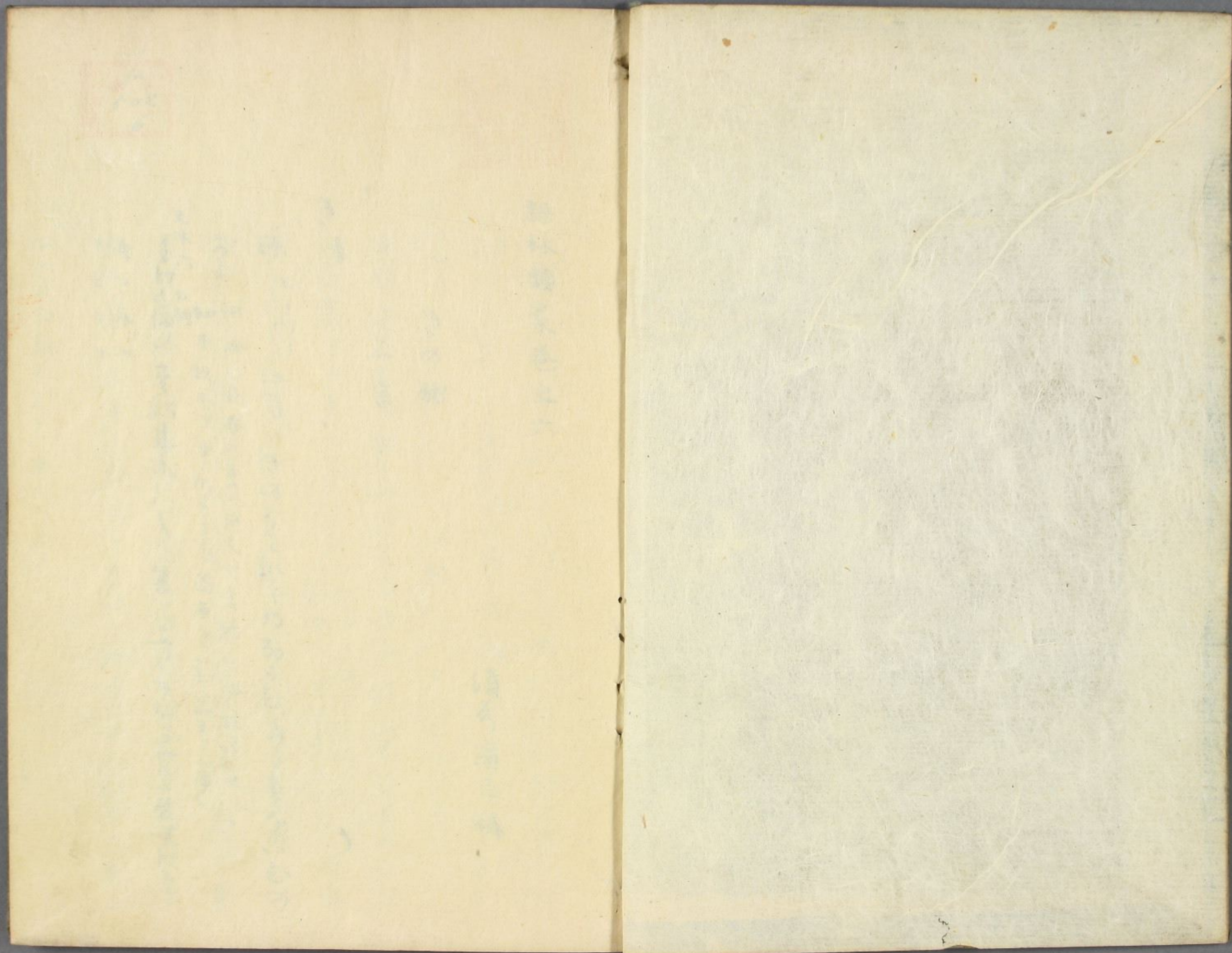
きく

六



ホ 2
502
6







語林類葉卷之六

清久濱臣輯

きの部

一言

き、季

源 玉 け月、きのりるはしわあるむ事なごきり

河海三月春の唐の終へ四季終世俗訖之

夫木六公朝 金けらるの事おはまたまて夏とふききりて後送らる

季ニ木、リヨ



き、 女の名は果きと云い、果公の意也

後撰意三同意六作者さき云々朝臣の女いほき○源氏
若葉の巻又紅葉の巻いほき○同あつをあてき○竹川
あまき○後撰秋下むりの兼香殿のあまき○兼
花いほてぬあまき^{十三}○あまきほめきさきき○大和きん
らしき^{十三}○あまきいほき^{十三}○
半習あまき○後撰新まふ合たあまき○兼花の巻
いほき^{十三}○源 女 女 さめいほきいほき
詞にきんちいほきいほき○あまきあまき○あまき源
うほきいほきいほきいほき○同 あまき 伊ちあまき

むらあまき

き

二条大戴集 源大納言のあまきいほき○大戴集のあまき
あまき^{十三} ○大鏡
序きんちいほきいほきいほきいほき○あまきいほき○あまきいほき
樓上下仲志のいほきいほき○同 あまき 下つあまき
いほきいほきいほき○同 あまき
あまき

11 Aug

きり 概

伊勢物語 イセモノガタリ あけをきりにあらぬくらけのあきまのぼてはれをさす

○ 続世継 鳥羽の清原 あほがたあうてたさき河見て

あうく車うーぬとあそびやーぬをさるる○万十六さうの

ふら湯とさるるさるるさるるさるる 持橋徒末 あじきん○水鏡

きり イセモノガタリ

うき世に イセモノガタリ まじりぬふらぬらるるんちきりを○竹取ひら

くさ姫きとらけにぬらぬ○古本今昔廿三行土佐

国堀金語急○同廿九条 忽ニ急ト失ヌ○同廿八

十人ヲ遣テ急ト御坐セト云ハセタレハ イフ

御出アレカ ○ 警声也今キヤ ○ 隆信集 きり ちと

ろき イセモノガタリ さめらゆに ミ コレニ イ 後ノサ ○ 宇治

拾遺三五 小式部曰侍きとみ をさるる ちと イセモノガタリ

入てふ人多く人あさしとち イセモノガタリ ちと イセモノガタリ 吃 イセモノガタリ 竹取抄

きり 牙

和名牙 岐波 ○ 万九牙 イセモノガタリ 喫

きん急

堤中納言物語

源朝長

ちの敏

いづれも

源

源朝長

きん急

大和物語

源朝長

源朝長

源朝長

源朝長

源朝長

源朝長

林葉三

源朝長

三言

きん急 着替

源朝長

源朝長

きん急

本草

源朝長

源朝長

玉葉雜三定家 うらふ

のよき すま。ホもみ ちりぬしてさるる月日もさなる昔も

五代秋 信玄

のよき のよき ちりぬしてさるる月日もさなる昔も

玉葉 あいの草木

とらほせ

拾 玉七十七

枯 ちりぬ ちりぬしてさるる月日もさなる昔も

保 靈女集

紅 雲 ちりぬしてさるる月日もさなる昔も

きーき 儀式

落くほ日 二

もー

きづぬ

四季談 二月

あつち きりぬ ちりぬしてさるる月日もさなる昔も

とー 〇和名杖

貴殿 キテン

小右記寛仁三年の西に人をきりて貴殿と

る〇今昔廿四 十三 具ハ貴殿ト川人トコリ此衆

ヲハ負ツラメ〇八雲脚杖之通後むるむらじ

いさくき教ハ詩駢也 長一 〇

きぬの 結屋

音楽

その大いんりてきぬの

のまふくう集りていふこと

屋十トノ照り曜キ

今昔此一五 舞臺結

きん

源 少女

○字の源 巻前

いふこといふこと

て清享十七〇源 桐壺

いふこといふこと

きん

きん 吃哩字

拾五十二 蓮系部

あうれまにあれ一節

新六 秋月 光俊

あうれまにあれ一節

頼政集下

支木

○哥林 拾葉

きん

新六家（新六家） 芝後

○松浦言お説上巻
〜して○盛衰説三ヶ田舎侍ノ気折ニヨリ
カリケルカ○

四言

きりぎりす 九多○九回

葉危（葉危） 九回

毬杖（毬杖）

和名杖雜藝具毬杖

○大食調曲名打毬楽 ○宇川保（宇川保） 榮使

うてしを（うてしを） 毬杖

きりぎりす 芝後

源（源） 毬杖

ほてあとい ○

きりぎりす

和泉武部集

そのあとい 毬杖

きみ

落書 齋 齋 序 世のきみ なるきき けり ぬ 〇大鏡序
い きみ なるきき けり ぬ 〇大鏡序

きくらい 奇怪

続世継 かのう けり ぬ 〇大鏡序
い けり ぬ 〇大鏡序

きさの木

宇川係次上 中 きさの木にらるる けり ぬ 〇大鏡序
い けり ぬ 〇大鏡序

〇和名 木 標 唐韻 云 標 音 雲 漢語 木 云 木 仇 或 說
文 与 虫 見 文 相 似 故 取 名 焉 今 按 取 和 名 木 文 也
若 義 相 近 矣 以 此 字 為 木 名 未 詳

〇李部王記 天曆四年七月七日 是夕 藤女御有
産養事 産婦 饌 衝 重 十六合 破子 食七 荷 屯 食八
具 器 午 錢 二 万 贈物 兎 衣 襪 各 五 重 納 支 仇 木 尊
二 合 白 絹 包 使 大 藏 丞 藤 原 宗 卷 〇

○同 *(faint cursive)*
一 *(faint cursive)* 又 *(faint cursive)* ○

きぬ *(faint cursive)* 松 *(faint cursive)*

源 *(faint cursive)* ○

木の頭

落 *(faint cursive)* 上 *(faint cursive)* ○
枕冊子 *(faint cursive)* ○

(faint cursive)

(faint cursive) ○

草 ○ 枕綱經云若佛子

信心出家受佛正戒 *(faint cursive)* 一切衆生眼不欲見犯

戒之人畜生無異木頭無異 ○

(faint cursive)

きぬ *(faint cursive)*

続世継 *(faint cursive)*

三条の *(faint cursive)* ○ 今昔十九 *(faint cursive)* 極 *(faint cursive)*

ク密ク除武クッ坐カリケル ○ 源 *(faint cursive)*

(faint cursive) ○

+

枕冊子 二
花の中きり 雲の合のまじりて
くまなくわたる雲の影

きり

志のむね上 〇源

〇宇鏡 〇漢書 〇書

〇宇鏡 〇漢書 〇書

きり 清書

十六夜日記 〇十首

きり 〇百

きり 〇百

二条大皇太后 〇大戴集 〇東鑑 十七

〇東鑑 十七

所北壺 〇壺

きり 〇壺

〇壺 〇壺

きんぎょ 衣服

うつ保 屋凡几帳

切銭

東鑑五十一弘長三年九月十日夜切銭事有
其汝汰近年多以出来之由有共聞自今以後者
用切銭事可停止之存此旨普可令下知之由被
御九典既等云其状云 切銭事 右近年多
出来有共聞於自今以後者用切銭事可停止之

存此旨普可令下知之状依御執達如件 弘長

三年九月十日 武藏守 加賀前司 殿 ○ 今金ノキ

セカレゴトクイニシハ通銭ノクヲ開高直十

リシ故ニキレクノ百ヲハ通用ヲトノシタル

きんぎょ 結

狭衣ニきんぎょとぬききんぎょ

五言

消え入る 常ノ詞ノカヘリハ殺ノ字也コレハ還ノ字也

さるくのみよろしき。○

逆修キマクシヨ

五代親教 厄ゆめて逆修しるる人の導師にあり
てまき 永縁 ○散木雜上を誦まの侍り逆修しけ
るに ○東鑑卅七 武列首御病眩事頗危急之
間及所療逆修等之儀

客殿キヤクテン

小右記参拜院於客殿云云○

きりくる

今云キリカハ

詞苑雜下後原宮宗室名ありのみに侍り付 中畧 遺記

きりくるて○切下文ノ一職原址ニ見エタリ○

六言

きりくるしきりくるしきりくるしきりくる

宗苑 補の引 四十五

北キタのマキナ前マキナ 墓前之。墓ハ北方也。北の前と云く

淮南子

主御門御百首

○ *（Handwritten text in cursive)*

ましのうゑー 金漆

葉元 玉臺

（Handwritten text in cursive)
○ 葉元 神元
○ 葉元 神元

（Handwritten text in cursive)
にさるあま コレハ 盤ソツマツ
ホノタル 齊ナリ

きとめり家 乞見の家

今物語 九段 可考 ○

まりりあし

舟

（Handwritten text in cursive)
同

新古秋 同

七言

きささの神

五代神祇

蛭言神

能因法師

夫木廿四

同

後拾遺

世明の國

能因

能因

○

北の多良

新古神祇

櫻本明神御事

補陀

落の浦舟

堂

多良

北の多良

多良

多良

同

同

同

同

同

同

同

同

○

八言

きささの子の目

忠見集

舟凡の事

二月の多良

多良

多良

○

おと
中の
秘

才部
十部

一十色形子失て行心モ迷ハシテ○同同世二
肝モ違心モ迷フ許忌エケレ○同廿六十八
肝落居ケル○西妻杖云さきかろくうと肝過テ
おもほーきしじへいひアマリヤ○増鏡
うめくきもなきしんさきくぼくさきあめ○

きをきりゆきゆきゆき

赤井集三
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

○淮南子 援枕巖躐而失木枝○

くの部

一言

具

葉花 月宴 一雨まるとの具めて物を倍○袂衣二上+
うめむめまきちさき將の清くもさけへく ○偶を○
○竹取をしてわきむき福○源 うれし
ふきをいとおもいけいめはほよ人の心
具にむい ○葉花 さけ花 一とていさの 四の君いさむめ君
の伊男に外きさきさきひにーい 智マ考へし同
同 枕めくー白うねのわくうを入てつづきの君あぢん人う

源
六帖詠草
多むけくさ

○六帖詠草多むけくさ○源 卷第 上ササ十ケレ

又ハスノトモイヒカタニ 北 上ササ十ケレ

一モ世ニアルトモアラハカコチクサニモシ

候ハ○今昔廿八世 聞継テ世ノ中ノ咲穉ニシ

○万十七長ふ 長 比身化といはるる

人ぬもつらん 後院 思人

○源 源 人の名をわたりてくまに

○増鏡 序 人の名をわたりてくまに

○源 須テ

はかりき 源 須テ

○同

○同

○同 下学集

山家下 四十 庚申の秋 公事名 ○二条

大皇太后 大戴集 存院 上 月庚申の秋

○同 人

○同 神事

○増鏡 三神

あそくをそとく

くさ 癖

林葉三

あそくをそとく月の色はあそくをそとく

○

くそ

あそくをそとく名の下につけあそくをそとく

あつ保

後系君

あそくをそとくあそくをそとく

司

あそくをそとくあそくをそとく

物語 小さくくそとくあそくをそとく人○同小さくくそとく

あそくをそとく童名あそくをそとく

梨栗 人ヲ罵テ云

華王經云尔夜會中有一居士名曰選擇居士有妻共名妙色面貌端嚴姿容挺特選擇居士深生愛著煩惱熾盛聞佛所說即曰佛言世尊莫作是說貪欲之心起於屎尿所以者何我妻端嚴無諸臭穢佛知居士貪垢情深即變化作一婦人像端嚴淨潔狀如妙色整容徐步走入衆中居士見已即作是念我妻何緣未入此會作是念已即問之

曰汝以何故而來此耶答言欲世尊說法居士率
坐自衣上佛以神力令是婦人糞汁共衣使此居
士不堪身處以手掩鼻顧視左右誰為此者跋
難陀在右邊坐語居士言何故掩鼻而顧我答言
是處有大臭穢以佛神力令跋難陀及諸衆等見
此婦人便棄糞穢汗居士衣跋難陀語居士言
且觀汝妻所為臭穢居士答言我無所疑我妻淨
潔身無諸穢若有疑者自當觀之語跋難陀我意
汝為此穢汗跋難陀昂大恚怒後坐而起語居
士言汝無漸愧誰名字汝為居士耶汝今忘名屎

居士也云云○今昔廿三大ニナル屎鴉ノ翼折
タルニ成テ木ノ上ヨリ土ニ落テフタメリ
ナリ○

和名憲クハ○竹取 上トルトとあけて○

くく クコ相通 クハニ是クハクマツ同義

くく 落クハ一上ト 今昔ハ汚文を多て所ヨリて多ク源大
人のあさしとさし信んとして多しんを多しと出多し

射かる矢の鞍の志^後川輪の上より腰に身をさす
為老後百 仲正

かゝるるはしるるにふるるをふるるをたふるる

○今昔廿八此五 女牛ニ結鞍ト云物ヲ置テ○台

記臣下大饗仁平二首也於西門外騎馬馬靴ニ

倭鞍有泥障具舎人居飼置移次置倭鞍次日記

無所見為尋近例皆倭鞍云云今後之縣居雜

稿云カクアレハ倭クラニ泥障アリ移鞍ニ

ニ泥障ナキヲ知ヘシ又古ニヨルニウツシハ

唐鞍ノウツシナリケリ下ノ雜ノ部ニ続古事

談ノアカリ馬ノ次ニ移馬トイフ傍注ニ移鞍

ハ唐鞍畧物施軍漆者也トイヘルヲ合ヒテ見

ルヘシ○拾遺別義二 移字 くらめくらくくら

らにをくらつらら右衛門考公任

あつらめはつらら〜^{サカ}めゆうの都のむをさひまら

○清心集 くらめくらめくらめくらめくら

三言

くら川 逸編

隆信集下 くら川をばるる
くら川をばるるくら川をばるるくら川をばるる
六百番ふ合家一ニ

○長明魚名也上...
うらり...
館 = 東テ寺ノ前 = 並ニ居テ奇ヲ詠ニ笛ヲ吹

續詞雜下 倭寇にうてて 敏因

人好...
はつ...

くり 竹器

方三...
○袖中ニ...
古吹上 中...
く...
く...

枕冊子...
く...

小鳥ノ中ノ...

く... 戸...

○... 卯...

く... 矢 = 草木トイハル例

草はの...
草はの...
草はの...

菜花 ちんちん
 同 ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん
 同 ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん
 の草はしちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん
 ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん

ちんちん

和名

○源 若菜上

ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん

○源 若菜上

ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん

ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん

一にちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん
 ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん

ちんちん 朽縹

林葉三

ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん

同三

ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん

○

ちんちん 大秦牛祭祭文 傳教大師作 癩狂ヲクツチト訓ス

あららほニ
あきぬの
○破石集三上
或里ニ癩狂ノ病アル者有ケリ此病ハ火ノ辺
水ノ辺人ノ多カル中ニメ祭ル心ウキ病也俗
ハクツチト云ヘリ

くつじ クスムトイフ詞ノ轉カ又クツホル、意カ

志のむね上
○
ク

くどく 功德

竹取の

く 説

堀後百寺 後抄

○ 押葉日記さへ

イヘリ今迄ノ
○ 讃岐日記上
○ 志のむね下

同上

○ 讃岐日記伊

ちうらみくし、
〇

くほて

和名抄

〇延喜式

〇字の深 同譲上

ちきほくほてを白き糸にて由る

て

同同

初きともきくほくほての糸のあつたて

〇二条大皇太后云大戴集 習為に

に雪のしきくほくほて〇同同 くほくほて

みちほ女ののりあて〇

らみて 組入ニテ天井ヲイフ

浦々別 ぬき地をあけてくほくほてのなみぬも見

〇堤中釘言 いかん いたそののくほくほて

ふくほくほてのちうらみくしの糸のあつたて

上文ふくほくほて 〇今昔廿七世 天井ノ組入ノ上ニ

物ノコッメクシ見上タレハ組入ノ子毎ニ顔

有リ其顔毎ニカハレリ〇大鏡一ニ三条 さいし佛

の面々東のきくほくほての糸のあつたて

志百々 国上敷 仲正

組様

伊物

金巻上さうみ

二條大貳集

あかへ〜風の流〜
まのの〜
○

梁十二

新本集上 式正の親王

夫木二 保季

はら〜
ま〜

食物の供養の給義

うい保 〇

〇

〇

くさひ

きつ保 後京君
〇

け 海月

河原通ルニハ 中畧 東路ヤ袖クヲ 下畧 ○

○宇治拾遺五 和伝 兼も娘 れも所

古本今昔六ニ条 御殿ノ南ノ庭ニテ 術クラ

河原ヲ通ルニハ 中畧 東路ヤ袖クヲ 下畧 ○

○宇治拾遺五 和伝 兼も娘 れも所

古本今昔六ニ条 御殿ノ南ノ庭ニテ 術クラ

河原ヲ通ルニハ 中畧 東路ヤ袖クヲ 下畧 ○

○宇治拾遺五 和伝 兼も娘 れも所

古本今昔六ニ条 御殿ノ南ノ庭ニテ 術クラ

河原ヲ通ルニハ 中畧 東路ヤ袖クヲ 下畧 ○

○宇治拾遺五 和伝 兼も娘 れも所

古本今昔六ニ条 御殿ノ南ノ庭ニテ 術クラ

河原ヲ通ルニハ 中畧 東路ヤ袖クヲ 下畧 ○

○宇治拾遺五 和伝 兼も娘 れも所

古本今昔六ニ条 御殿ノ南ノ庭ニテ 術クラ

河原ヲ通ルニハ 中畧 東路ヤ袖クヲ 下畧 ○

○宇治拾遺五 和伝 兼も娘 れも所

古本今昔六ニ条 御殿ノ南ノ庭ニテ 術クラ

河原ヲ通ルニハ 中畧 東路ヤ袖クヲ 下畧 ○

○宇治拾遺五 和伝 兼も娘 れも所

古本今昔六ニ条 御殿ノ南ノ庭ニテ 術クラ

河原ヲ通ルニハ 中畧 東路ヤ袖クヲ 下畧 ○

○宇治拾遺五 和伝 兼も娘 れも所

古本今昔六ニ条 御殿ノ南ノ庭ニテ 術クラ

○家集○六帖海 ○統後堀色一○和名抄雜藝
部競渡 布奈久 良倍 ○同競馬 字少良用 ○同牽道 美知久良
○古事記力競 ○宇鏡掬 久知良 ○同扛 知加良久
○并乳母集 夫木世六聖 源仲正 あんらんくみりて 多むせりて ちりり代りて

江次第四 定受領 註件大勘文勘並前任功過謂

之多計久良戸源明石んん

夫木八 弟氏 於人 雅有

うづまのまはたにむをあらしてまへにけしきいのみ

○

⁺某車

ひろくらの車
らめん車

景気 浦々別 十一 ひとろくらの車にのみまの同 セツ の字

のゆきうらをのほの愚管杖六太ふの人の雨院の
一家の中へまゐるまゐるまゐるの嫡子にまてこも 尾は

車はつらまへまゐるの今昔廿二セ亦ノ日筵張

ノ車ニ下簾懸テ侍二人計具シテ御ス○同廿

ハニ車酔タル心地共ナレハ極テ心地悪ク成

テ目轉テ万ノ物逆様ニ見エ○同同 未久車

ニ一度モ不乗ハリケル者共ニテ此ク悲ニテ

酔死タリケル○今昔廿九 ニ六角ヨリハ北口

ヨリハ口ニ畧 共辺ニハ車借ト云フ者数 有リ

○

くぎぬき

学冠 浦々別

うのしちうあてにちんせいのしん

とけいしんせきにほのむしうてあまの月をきりて

卒都婆くぎぬきにあまの月に〇袂衣 門外

としぬてあまのくぎぬきとくぎぬきを

松百子園 確係法原

くぎぬきとくぎぬきにほの月のくぎぬきを

〇撰集抄

くぎぬき

万

くぎぬきとくぎぬきにほの月のくぎぬきを

夫木 大嘗寺 源仲正
くぎぬきとくぎぬきにほの月のくぎぬきを

くぎぬき 句配

言塵集序は文字くぎぬきとくぎぬき

くぎぬき

枕冊子 〇くぎぬきとくぎぬき

〇

くぎぬき 撰集抄

川井

詞苑冬 曾丹
 まあぐまのまほしん
 りんごのまほしん
 まほしのまほしん
 まほしのまほしん

くさくさち 草立

夫木ニ 言葉

○ まほしのまほしん
 りんごのまほしん
 まほしのまほしん

くさくさち 草奴

万葉

堀波百

續古今 三信知家

くさくさち
 りんごのまほしん
 まほしのまほしん

新六 新注
 くさくさち

りんごのまほしん
 まほしのまほしん

○ 頭昭散木集注 ○

くさくさち

源 散里

○ 同 梅枝

○ 同 幕木

○ 落窪

○ 源

玉

○ 同

同

くさくさち

草臥 ○ 幸吟 世一説 鹿のまほしのまほしん
 又 一説 幸吟 世一のまほしのまほしん
 三 下 フ イ ト 野
 ノ 下 フ イ ト 野
 山 下 フ イ ト 野
 フ 下 フ イ ト 野
 シ 下 フ イ ト 野
 ノ 下 フ イ ト 野
 サ 下 フ イ ト 野
 マ 下 フ イ ト 野
 シ 下 フ イ ト 野
 思 下 フ イ ト 野
 ヒ 下 フ イ ト 野
 ヤ 下 フ イ ト 野
 レ 下 フ イ ト 野
 ル 下 フ イ ト 野
 カ 下 フ イ ト 野
 野 下 フ イ ト 野
 フ 下 フ イ ト 野
 シ 下 フ イ ト 野

万十

後拾秋上 系注

拾遺外下

拾玉一

山崎の...

子秋下 寂蓮

野分...

同 長...

...

続後拾秋上 公雄

...

○

く、之、ま、草、臥、○、ク、タ、ハ、ナ、ク、ニ、シ、テ、...

ハ

中務内侍日記...

○同 十日...

野落...

くらあ辰 腐庄

源 夏淳...

婦集 深河院...

后ノ上 帝光...

紀上 福信...

世五

くらをんれ
おんくら
くらいぬ
くらいぬ
くらいぬ
くらいぬ

送七ふいひな事らそあきもむほえぬくむに
りぬいりしもききいん
集 ちち藻
コシニ為情ナレ
女ヲ罵タイハリ ○元貞

くちしき 後浴の口も可や

源 梅枝 おもひくちりかへに ○花元 花元

源 前巻 事なればあはれいかにいかにさかへんあはれいかにさかへん
源 前巻 ちちいれぬに
○

くちあで ○華

花元 七十一 村上の志事なむかへりけり
あひあふのむけりけりあはれいかにさかへんあはれいかにさかへん
あはれいかにさかへんあはれいかにさかへん
○

くらあし ○論
うまの福 くらあしぬとをいかにさかへんあはれいかにさかへん
○

くみやま 細垣
あはれいかにさかへんあはれいかにさかへんあはれいかにさかへん
あはれいかにさかへんあはれいかにさかへん
○

○

梅々

後深草一 元良親王

梅々にはあさひのうけをり
梅々にもうり同御殿

くもほる

野守鏡序 色らにさかすか

ろましくもほる

へ

へ

くもほる

○ 讚岐日記

○ 司

俗カレトミカレリノ 約カ

小嶋口早 小舟の

ち○

くもほる 厨女

○ 司

井

くさめらろき、ちんぎん、うけあか、ちんぎん、ちんぎん、ちんぎん、
 〇枕冊子、ちんぎん、ちんぎん、ちんぎん、ちんぎん、ちんぎん、
 〇出、あか、ちんぎん、ちんぎん、ちんぎん、ちんぎん、ちんぎん、

くさめら

珠珠 北あか、ちんぎん、ちんぎん、ちんぎん、ちんぎん、ちんぎん、

〇ちんぎん、ちんぎん、ちんぎん、

万葉ふ
 つね、ちんぎん、ちんぎん、ちんぎん、ちんぎん、ちんぎん、

〇葉花 浦々子 うり山らうあて、ちんぎん、ちんぎん、ちんぎん、

〇禊明紀 干之、齋母、例、左、

ツカキ、ニ、チ、チ、チ、チ、チ、チ、チ、チ、チ、チ、チ、チ、

くさめら、ちんぎん、ちんぎん、ちんぎん、ちんぎん、ちんぎん、

葉花 四十七 ちんぎん、ちんぎん、ちんぎん、ちんぎん、ちんぎん、

ちんぎん、ちんぎん、ちんぎん、ちんぎん、ちんぎん、ちんぎん、

くさめら、黒柿音便

ちんぎん、ちんぎん、ちんぎん、ちんぎん、ちんぎん、ちんぎん、

きと... 〇司同

く... 懐紙

東鑑廿二丁 建曆二年正月廿六日 云進懐紙

〇同世四 仁治二年八月十五日 首当坐和哥御

會女房被進懐紙云 〇同五十弘長三年八月

六日為被廻滅罪之謀以彼懐紙裡可被書寫經

典〇... 〇袋艸子 懐紙書法

〇... 〇...

五言

く... 〇

和名雜藝類云 厨草荆楚歲時記云 五月五日有

厨百草之戲 〇... 〇...

〇野守鏡序... 〇...

〇...

く... 〇

文集 草縷葺々兩剪各

後... 〇... 〇...

同中
秋の歸り...
現六...
続後...
...
...
...

くさくさ

河内

うき...
...
...

秋衣

多...
...

新中

...
...

月清集

...
...

拾遺集

...
...

新後

...
...

壬中

...
...

うつほ

...
...

降信集下

くさくさ

...

...
...

○

くさくさ

菊 四月宴 〇同 〇同 〇同 〇同 〇同

〇同 〇同 〇同 〇同 〇同

六美 = 希物癖物也 鶴 〇大鏡三 〇盛衰記十

〇同 〇同 〇同 〇同 〇同

くらあそびの遊

〇同 〇同 〇同 〇同 〇同

〇同 〇同 〇同 〇同 〇同

〇同 〇同 〇同 〇同 〇同

〇同 〇同 〇同 〇同 〇同

きこにや〇

くらあそび

枕冊子

〇菊 若枝 淨几帳 〇今昔廿四 〇同 〇同 〇同

〇同 〇同 〇同 〇同 〇同

〇同 〇同 〇同 〇同 〇同

〇同 〇同 〇同 〇同 〇同

〇同 〇同 〇同 〇同 〇同

くらまサレノ物。果ニくらまサレテト俗言ニ
詞苑雜下 公任
イノ...

くさのあま

千雜下
...

くさのあま 愛神

中勢日記 くらまさるはちきりて○司多く交る

くらん 還昇

千雜中 還昇して... 多系 寺經 類聚

○職原抄 秘抄 環翠軒 云 教上より 地中へありて又

教上は... の教上人と云 ○千神 大御言に

還任して... ○

六言

くさのあま 河神地

源 著菜上 朱雀院の清らけを... あほを...

あはれを... ○司 あり

くめえい

くめえい

葉花

三十一

水三〇司

くめえい

源 結合

あはれあはれ

あはれあはれ

朝臣の上はえ

えて〇

くめえい 鉄板足

きつ保

楽記

くめえい

金葉 拾玉田

あはれあはれ

康賢王母

ふきのくはちのくはにまきまはらひのきりきり

天のまのうへに風のむせむにむせむにむせむにむせむに

清南集

壬二集 寒松 六百巻

にまきまはらひのきりきり

月詣

○ 続世継

まのくはちのくはにまきまはらひのきりきり

夕たれにまきまはらひのきりきり

拾遺意四

雲旗のめ

新朗言 菅家

清南集

機に綾を

らせむり

くもはらむ

千雑中 良暹法師

くものきぬ

六帖 友則

○

くものきぬ 信袍

くものきぬ 信袍

後拾雅上 瑞河右左衛門

セ夕 新朗 七夕 信袍

○ 新朗 七夕 信袍

くものきぬ 信袍

尚書會記 ぐのきぬ 信袍

くものきぬ

後拾雅 伊賀守

くものきぬ 信袍

月詠集 静縁

くものきぬ 信袍

くものきぬ

新古語

くものきぬ 信袍

○ 杖云 玄音云 信袍

○

十言

九ク体クのノ阿ア弥ミ陀タ佛フツ

兼兼亮亮 疑疑 あらまき九九体体ののああららままきき○

十一言

くくりりここののみみづづののみみづづ

兼兼亮亮 若若水水 おおつつくくのの清清風風のの○

くくももああわわののみみづづののみみづづ

兼兼葉葉 文文ののああららままききののみみづづののみみづづ

つつくくののみみづづののみみづづ 日日大大匠匠兼兼小小大大進進

新新六六紅紅 兼兼亮亮 ああららままききののみみづづののみみづづ
いいくくささのの清清風風ののみみづづののみみづづ

○毛詩邶風靜女篇靜女其嬈貽我彤管

Nov 25 2nd morning

Left at 10:30 AM for ...

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

Site

